

【フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	京 都 府
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

地域住民や保護者の教育に対する期待や関心は高く、育友会や生涯学習委員、社会体育振興会等の社会教育関係団体の活動は活発であり、学校教育との連携が積極的に図られている。

府教委算数科教育研究実践指定、府小学校教育研究会音楽科教育研究指定、市教委指定総合的な学習の時間の研究指定等、毎年、積極的・継続的に研究実践に取り組み、地域・保護者と一体となった開かれた学校づくりを推進している。

児童は、素直で何事にも真面目に取り組む。更に、主体的に考え判断できる力、目的や場面、相手意識をもって適切な表現ができる力を育成することを目指したい。

	長岡京市立長岡第四小学校（フロンティアスクール名：国語科）								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	23
児童数	65	65	44	72	45	56	5	352	

実践研究の概要

1 主題

「適切に表現する力、正確に理解する力を育てる国語教育の充実」

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。
 ・国語
 児童の理解度の状況に差が生じやすく、全ての教科の基礎となる部分を含む教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

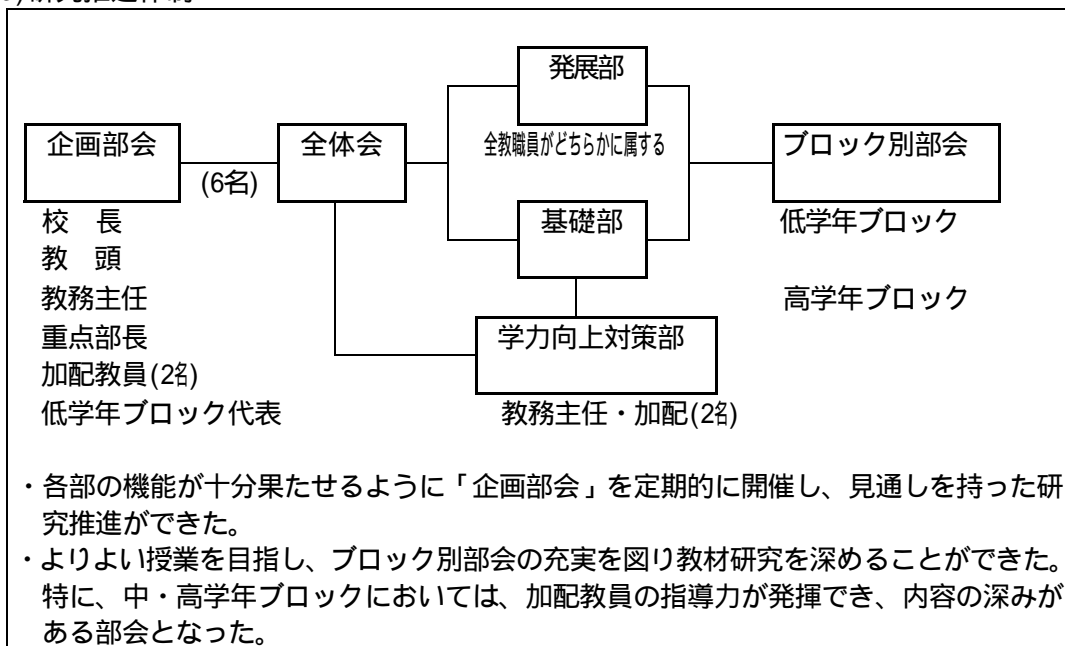
平成14年度	<p>テーマ 「適切に表現する力、正確に理解する力を育てる国語教育の充実」</p> <p>仮説 ・効果的な授業方法（少人数型、学年TT型、学級TT型、担任型など）を選択しながら単元構想図を作成していく中で、より効果的な授業方法が確立され、学力向上につながる。 ・学習環境を整え、児童個々にあった学習教材を開発することで、児童の基礎学力向上につながる。</p> <p>研究内容・方法 ・国語科に関する理論研修 ・単元構想図の作成及び教材開発による実践研究（発展部） ・基礎学力向上を目指した教材開発（基礎部） ・国語科の環境整備 ・伝え合う力の向上を目指したテレビ会議システムの活用方法の開発</p>
--------	---

平成	<p>テーマ 「適切に表現する力、正確に理解する力を育てる国語教育の充実」</p> <p>研究の見通し（仮説） ・効果的な授業方法（少人数型、学年TT型、学級TT型、担任型など）を選択しながら単元構想図を作成していく中で、より効果的な授業方法が確立され、学力向上につながる。</p>
----	--

15 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整え、児童個々にあった学習教材を開発することで、個々の基礎学力向上につながる。 ・発展教材をもとにした授業を実践することで、児童個々の興味・関心を広げ、学習意欲を高めることにつながる。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の公開及び授業実践の交流 ・発展教材の開発及び発展教材による実践研究（発展部） ・基礎学力向上を目指した教材開発（基礎部） ・国語科の環境整備 ・伝え合う力の向上を目指したテレビ会議システムの活用方法の開発（京北第二小学校とテレビ会議を実施）
--------------	---

平 成 16 年 度	<p>テーマ 「適切に表現する力、正確に理解する力を育てる国語教育の充実」 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な授業方法（少人数型、学年TT型、学級TT型、担任型など）を選択しながら単元構想図を作成していく中で、より効果的な授業方法が確立され、学力向上につながる。 ・学習環境を整え、児童個々にあった学習教材を開発することで、個々の基礎学力向上につながる。 ・他教科及び他の単元との関連を図った発展教材をもとにした授業を実践することで、児童個々の興味・関心を広げ、学習意欲を高めることにつながる。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開及び授業実践の交流 ・発展学習における教材開発及び実践研究（発展部） ・基礎学力向上を目指した教材開発（基礎部） ・国語科と総合的な学習の時間の関連を図った構想図の作成 ・説明的文章、文学的文章を通した言語事項の指導の工夫 ・国語科の環境整備
------------------------	---

(3) 研究推進体制



- ・児童の学力向上を目指した国語科の授業の在り方や児童の意欲を引き出す教材・教具の工夫・開発を考慮した全体の研修・研究を開催することができた。

平成15年度の成果及び課題

1 研究の成果

- ・教育方法工夫加配教員と学年間の協議のもとに、少人数授業が確実に定着し、児童の意欲的な学習態度が見られるようになった。
- ・教材の特性を生かした魅力あるコース設定を行うことができた。
- ・児童のコース選択においては、事前の状況把握及び教師の適切なアドバイスを行う等、児童一人一人の学力向上につながることに配慮した。
- ・中・高学年における少人数授業の実施においては、興味・関心別や習熟の程度に応じた形態で実施することができた。
- ・児童の基礎学力の向上を目指して、各学年の学習プリントを作成し、朝学習や補充学習に活用することができた。
- ・教材の内容理解や学習意欲の喚起を図るために、各学習コースに応じたワークシートを作成し活用することができた。
- ・言語事項における発展教材を作成し、高学年において一部活用することができた。

2 今後の課題

- ・発展的な教材の開発を行い、習熟の程度に応じた少人数授業において活用できるよう計画的に取り組を進める。
- ・児童の学力向上を目指して指導方法の工夫を模索し、児童が主体的に参加することができる授業展開を更に工夫する。
- ・少人数授業のコース設定を一層工夫する。
- ・児童に基礎・基本を身に付けさせるために、教材と関連した補充的な学習プリントの開発及び作成を一層進める。
- ・児童の好奇心を高め意欲的な学習態度が持続できる学習教材の開発を行う。

学力把握のための学校の取組

- ・第4学年と第6学年において、国語と算数の基礎学力診断テスト（京都府下全域）第3学年と第5学年においては、教研式標準学力検査（CRT）を実施した。児童の達成状況及び課題となる点を全教職員で共通理解をし、授業改善に生かすことができた。
- ・各学年とも、単元導入前には、既習事項の定着を把握するテスト、単元終了時点では、定着の程度をみるテストを実施してきた。また、教材によっては、まとめの文章作成等をさせることも実施した。
- ・学期末には、学習内容の定着を把握するために「学期のまとめテスト」を実施し、児童一人一人の成果と課題を明確にし、次学期への手だてを模索した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年12月5日（金）に研究発表会を実施した。全校児童による国語集会、全学級の公開授業、パネルディスカッション形式の研究報告と発表内容の工夫を行った。200名を超える多くの参観者を得て研究協議を深め、本校の研究仮説の方向性が確認できた。
- ・乙訓地区学力向上推進協議会の一環として、2回の国語科の公開授業を行った。近隣の小・中学校から多くの参観者があり、効果的な授業方法を公開できた。
- ・教頭、教務、教育方法工夫加配教員、重点部長が国語科の講師として招聘され、他校の研究会や教職員の研修会の場で報告する機会が多く持てた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T.Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関する加配の有無】		有	無	